

総論

満点	40点	目標得点	34点	試験時間	60分	偏差値	73
大問数	4	小問数	40				
【解答形式】		選択式	20/40問	記述式	20/40問	論述式	0/40問
【問題難易度】		C	4/40問	B	12/40問	A	24/40問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：大問数は例年と同じ4題、小問数も例年と同じ40題と昨年と同じ形式であった。全体としては本文を読まずに一問一答的に解ける基礎的な問題が増え、かなり得点しやすい内容となったため、易化したといえる。
- 2：近現代史が出題の主流を占め、中世は出題されず。
- 3：正誤問題・未見史料問題・配列問題・筆記問題が大きな柱となり、作り方は今年も変わらず。ただ、未見史料問題は昨年度の3題から1題に減少している。

こんな力が求められる！

早稲田の日本史の大きな合否を分けるのは、正誤問題と未見史料問題である。

正誤問題は、センターレベルの正誤問題では9割以上は取れないと厳しい。正誤自体はかなり微妙な選択肢が多いため、かなり見慣れることが必要である。さらに、本学部は「2つ選ばせる」タイプの正誤問題なので、1つは選べるが、もう1つは消去法で解かないと割り出せないことも多々ある。そこで、過去問に加えて、同じ「2つ選ばせる」タイプの正誤問題を出题する文化構想学部や商学部の過去問を解き慣れることが大切である

未見史料問題は、史料テキストで、授業で取り扱わなかった史料も徹底して読み込むことを普段からやっていくことを心がけよう。なお、未見史料は必ず本文もしくは問題文や選択肢にヒントがあるので、背景知識があれば解ける。ただ、史料を単なる暗記してただけでは厳しいので、ちゃんと古文のように読まない駄目である。そのためにも史料に対する慣れをつけよう。特に近現代の未見史料問題は頻出なので、政治経済学部の過去問や社会学部の過去問なども解いておくことで史料を読むことに抵抗がなくなるはずである。

配列問題は、史料とタイアップしている問題が主流であるが、毎年何題か出題されるので、年号のチェックもかなりしておく必要がある。国際教養学部の過去問に類似問題があるので、解いておくといいだろう。

具体的な対策としては、お茶ゼミのテキストで言えば、早慶レベルの用語と史料テキストを徹底してつぶしていくこと。そして、正誤問題は正解でない選択肢も1つずつ分析して覚えていく地道な作業をしていくことが合格への近道である。

【I】

予想配点	8/40 点	時間配分の目安	10/60 分
出題分野・テーマ	仏教と東大寺史		
出題形式	選択、記述		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：A 2：B 3：B 4：A 5：C 6：A 7：B 8：A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：3月期②1・2回，夏期文化史2・4回 11月期1回，冬期社会経済史I1回 センター：3月期①4回，夏期センターレベル文化史1回 11月期1回，冬期社会経済史I1回		

●本大問の特徴・概要

例年は、古代・中世のテーマ史が出題されるが、今年は古代のみの出題となり、全体から見たらかなり得点しやすい大問となった。仏教史は本学部では 2004 年に出版されているが、早稲田大学自体では頻出テーマの1つである。

基本的な問題が多いが、一部盲点的な用語を問うている問題がある。これは早稲田全体に言えることであるが、教科書レベルでは太刀打ちできない問題があるため、教科書で言えば欄外の注や図やグラフの下の解説、さらに早期の段階から用語集で少しずつ用語をつぶしていく、ミクロ的な学習が必要である。

●注目すべき小問

- 空欄を問うてくるのではなく、空欄を埋めるのを前提とした問題。ワンステップ置いて問うているため作り方は難しく感じるが、今回は「仏教」が入るのがすぐわかるため基礎問題と言える。ただ、このタイプの問題も早稲田は頻出なため、解き慣れる必要がある。
- この「2つ選ばせる」タイプの正誤問題は早稲田の一部学部の独特な作り方であるが、今回はストレートに選べてしまうので基礎問題と言える。
 - い。「国分尼寺」が「国分寺」、「尼僧」が「僧侶」の誤り。
 - う。「八幡神の託宣」が「恵美押勝の乱後」の誤り。
 - え。光明皇后は皇位についていないので×。
- 「東大寺」が華嚴宗であるので、「華嚴」経が入るわけだが、文章的には「一切」経ともとれる書き方であり、合否を分ける一問と言えよう。
- う。「治田」は用語集でも頻度1であるので、かなりの難問と言える。ただし消去法で解くことができるので、早稲田の場合は知らない選択肢はとりあえず保留にして、知っている選択肢で選別していくことが大切である。
- 最初の空欄Eの直前の「高僧」が「重源」とわかるので、東大寺大「勸進」職は早稲田受験生なら埋めてほしいところだ。ただ、これもワンステップ置いて問うている問題と言える。
- 文化史の作品は図表などで画像を見ながらイメージできるようにしておいたほうが覚えやすい。今回はストレートにも解けるし、「正倉院宝物」というページが学校などの図表に載っているはずなので、そこをまめにチェックしているかがキーとなる。

【Ⅱ】

予想配点 10/40 点	時間配分の目安 15/60 分
出題分野・テーマ 近世の外交	
出題形式 選択、配列、記述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：A 2：A 3：A 4：B 5：A 6：A 7：A 8：A 9：A 10：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：6月期2回，7月期1・2回，冬期対外交渉史Ⅰ2・3回 センター：5月期3・4回，6月期3・4回，冬期対外交渉史Ⅰ2・3回	

●本大問の特徴・概要

前半の江戸時代の日朝関係は早稲田自体の頻出テーマである。さらに、後半の「列強の接近」は昨年度に続いて連続して問われているテーマである。

昨年度は未見史料問題であり、多少得点差がついたところであるが、今年度はほぼ満点が望める、一番得点しやすい大問となった。時間配分は15分としたが、上位ランクの学生では10分もかからないので、ここをいかに早く終わらせて後半に時間を余らせるかがある意味キーとなる。

●注目すべき小問

1. 輸入品は「生糸」、輸出品は「銀・銅」で選ぶとすぐ答えは出る。
日宋貿易・日明貿易・中世の日朝貿易・琉球貿易・南蛮貿易の輸出入品もそれぞれ確認しておこう。
基礎問題ではあるが、頻出問題である。
2. 鎖国下の四つの出口も頻出で、昨年度も本学部で出題され、連続した出題となった。
3. 朝鮮通信使は、最初は捕虜の送還を目的としたので「回答使兼刷還使」とよばれた。2009年度人間科学部、2007年度国際教養学部などの過去問にも見られるように、この文章は早稲田の正誤問題ではかなり出ている文章なので覚えこもう。
4. ストレートに選ぶことはできないが消去法で出していきたい問題である。この問題が取れるかどうか合否を分ける1問と言える。
あ。瀬戸内海を海路で大坂まで行き、大坂から江戸まで陸路をとった。という一文を知っていれば×と判定できる。ちなみに、この文章も早稲田頻出なので知らない学生は覚えこもう。
い。「講和の前」が「講和の後」の誤り。
え。「糸割符制度を朝鮮に適用」が×。
お。「当初から」が×で、新井白石が簡素化した。
5. 6. 9. 10. 教科書レベルの基礎用語であり、今年度の易化した象徴的問題と言える。

【Ⅲ】

予想配点 10/40 点	時間配分の目安 15/60 分
出題分野・テーマ 明治時代の条約改正と外交	
出題形式 選択、配列、記述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：B 2：B 3：C 4：A 5：B 6：A 7：A 8：A 9：C 10：B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：夏期近現代史Ⅰ3・4回，冬期対外交渉史Ⅱ1回 センター：9月期1・2回，冬期対外交渉史Ⅱ1回	

●本大問の特徴・概要

明治時代の外交についての未見史料問題であるが、今回の史料問題は読めば何のことかわかるし、正誤の内容からも逆算できる。なお未見史料の短文並べ替えも頻出である。そこで、年号もかなり覚えておく必要がある。

全体的にやや難問もあるが、早稲田の難易度的には妥当と言えよう。ただ、空欄を間違えると連動して正誤問題もずれてくることとなるので、慎重に解きたい1問である。

●注目すべき小問

史料は①は大隈の襲撃から「1889年」、②は日英通商航海条約から「1894年」、③は北清事変から「1900年」、④は大津事件から「1891年」、⑤は大日本帝国憲法から「1889年」、⑥は日英同盟から「1902年」となる。なお、同じ年であるが⑤は黒田内閣、①は黒田内閣退陣の理由なのでこの段階で10の問題は解ける。まず、この分析を前提として問題を解いていくこととなる。

- 史料とは関係なく、正誤の選択肢だけで解ける問題である。選択肢「あ」の「治外法権の撤廃」が「関税自主権の回復」の誤り。なお、この段階では、空欄A・Bは埋まらないが、問題はない。
- 史料③④からBがロシア、⑤からAがドイツであるとわかることになるが、空欄A・Bは完答となるため、合否を分ける一問でもある。ちなみに、史料⑤は同じ史料が2008年度の国際教養学部で出題され、まったく同じ部分が空欄となっているため、未見史料であっても早稲田では他学部で出題されることがあると理解できよう。やはり、他学部の未見史料問題も解いておく必要がある。
- 3・4. ②だけ見ると1911年の税権回復のように見え、空欄Cをアメリカとひっかける難問である。ただ、⑥を見ると空欄Cがイギリスであるとわかり、そこから3の正誤問題を解くことができる。難問ではあるがよく練られている良問である。
- 北清事変の内容を正確に押さえているかを問うている問題で、合格するには確実に取りに行きたい1問である。
 - 「列強に出兵を要請」が「列強に宣戦布告」の誤り。
 - 「日本はロシアに次ぐ兵力を派遣」が「最大の兵力を派遣」の誤り。
 - 「清国全土」が「北京」の誤り。
 - 「北京」が「満州」の誤り。
- これも確実に取りに行きたい日英同盟についての正誤問題である。ちなみに、この選択肢からも空欄Cがイギリスであるともわかる。
 - 「参戦の義務を負う」が「厳正中立をとる」の誤り。
 - 「モンロー主義」はアメリカなので×。
 - 「日露戦争後」が「ポーツマス条約前」の誤り。
 - 「九カ国条約」が「四カ国条約」の誤り。

【IV】

予想配点	12/40 点	時間配分の目安	20/60 分
出題分野・テーマ	近現代の汚職事件		
出題形式	選択、配列、記述		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：B 2：A 3：A 4：A 5：A 6：B 7：A 8：A 9：B 10：B 11：C 12：A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：夏期近現代史Ⅱ 1・3回，9月期2・3・4回，直前特訓戦後史 センター：9月期3回，10月期1・3・4回，直前特訓戦後史		

●本大問の特徴・概要

戦前・戦後の汚職事件についての出題で、戦後関係は本学部の頻出テーマのひとつでもある。戦前から戦後にかけての出題は毎年最後の大問として出題されている。

戦後史の細かい知識と、年号を問うている大問で、本年度最難問といえよう。

●注目すべき小問

汚職についての短文だが、①はロッキード事件で「1976年」、②はシーメンス事件で「1914年」、③はリクルート事件で「1988～89年」、④は造船疑獄事件で「1953～54年」、⑤は帝人事件で「1834年」、⑥は昭和電工疑獄事件で「1948年」となる。この段階で10の問題は解ける。まず、この分析を前提として問題を解いていくこととなる。

- ロッキード事件は、三木内閣の時に田中角栄前首相が逮捕された。一般的な正誤問題であるが、①がロッキード事件とわかった上での問題であるので、ワンステップ置いてあるため早稲田的な問題と言える。確実に取りにいきたい。選択肢の「あ」は宮沢内閣、「い」「え」は「逮捕された時は内閣が違う」ので×。「お」は田中内閣。
- また「2つ選ばせる」タイプの正誤問題であるが、内容的には合否を分ける問題と言える。選択肢をすべて分析できれば確実に取れるはず。
 - 治安維持法の制定は1925年で、金融恐慌は1927年なので×。
 - 昭和天皇が即位したのは1926年なので×。
 - 「田中義一内閣」が「第一次若槻内閣」の誤り。
- これも、「2つ選ばせる」タイプの正誤問題であるが、今回最難問の一つと言えよう。
 - ストレートに○だと判定できるはず。
 - 「公定価格制」は1939年の価格等統制令以降のもので×。
 - 教科書の範囲は逸脱しているものの、一般的には取っていききたいところ。もちろん○であるが、一般受験生にはやや難問か。
 - 自由民主党の結成は「1955年」であるので×。これは基礎問題。
 - 一般受験生には判定ができないと思われるので、捨て問となる。ある程度の学習をしていれば、答えは出せると思われるが、2つ選ばなければいけないのでかなり厳しいレベルではある。